

令和2年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：31006
学校名：札幌市立伏見学校

改訂のポイント

- 協働的な学びの中で自己有用感を感じられる学習活動の充実
- 自分の考えを表現したり、他者と意見交換したりする活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める取組

項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	☆「分かる」「できる」喜びを感じ、新たな課題や問題に対して主体的に取り組む生徒。		
「学ぶ力」に関する成果や課題	学ぶ意欲	【昨年度の具体的な取組】 ○ALTの授業、筆の授業、スキー学習、乳児ふれあい学習など体験的な学習を充実し、興味・関心を深める取組を行った。	【成果】 ⇒活動を伴う授業を展開することで、他者との関わり合いの中で学びを深めることができ、学習意欲の喚起にもつながった。	【課題】 ◇授業の目的を明確にするとともに、活動だけの授業にならないように、生徒が自分の学びを振り返る場面を設定する必要がある。
	思考力・判断力・表現力等	【昨年度の具体的な取組】 ○各教科、思考力・判断力・表現力の育成に関わる場面の共通理解をもとに、教科横断的な取組を行った。 ○「考え議論する道徳」をキーワードに校内研修会で道徳の公開授業を実施した。	【成果】 ⇒自分の思考を表現し、後から振り返ることができるワークシートを、特別の教科道徳において、全学年共通して取り入れ、実施することができた。	【課題】 ◇道徳だけでなく、各教科において思考力・判断力・表現力をどのように育成するか、またどのように見取り、評価するかについて教科の枠を超えて研修を積み重ねていく必要がある。
	基礎的・基本的な知識及び技能	【昨年度の具体的な取組】 ○生徒の学習状況の把握に努め基礎・基本の定着を図るとともに、個に応じた教育相談活動の充実を目指した。	【成果】 ⇒教育相談日の日程を各学期に設定することができた。また、様々な場面でつまずきを感じている生徒に、個別な学習指導等を行うことができた。	【課題】 ◇つまずきのある生徒だけでなく、習熟度の高い生徒への対応など、個に応じた学習指導の工夫と改善が必要である。
今年度の具体的な改善策（取組）	取組の最重点	【取組の共有】 深い学びにつながる学習集団の形成と、自己有用感(分かる・できる・楽しい)が高まる授業の工夫・改善		
	具体的な改善策（取組）	○各授業での課題や目標を明確にするとともに、章や単元の学習を通して、何ができるようになるのかを生徒に伝え、生徒が見通しをもって学習に取り組めるような工夫を行う。 ○見通しをもった評価計画と指導計画を立て、生徒の意欲向上につながる評価の工夫・改善を行う。 ○思考力・判断力・表現力の育成につながるような「自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実を図る。 ○教育相談活動の充実を図り、生徒一人一人の学習状況の把握に努め、個に応じた学習指導に役立てる。		
検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	○各教科の評価規準に基づく学習状況評価等の活用。（日常のテストやレポート、ノート、観察等） ○全国学力・学習状況調査の結果を活用。WAT（標準学力検査）の活用。 ○札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）の活用。		